



やさしさが詰まった 団地

大阪府立淀商業高等学校

1年

みつもと

光本

あかね

茜

私は「やさしさ」が沢山詰まっている団地に住んでいます。単親世帯や障がいのある方、また子どもや高齢の方も住みやすい団地です。今回はそのような団地の「やさしさ」について調査しました。

最初に調査したのは、団地の共用廊下です。廊下幅は二人が横並びで歩いても余裕のある広さのため、視覚障がいや高齢などで歩行介助を受けている方や、車いすに乗っている方もスムーズに通行することができます。また、スロープや手摺があるため、ベビーカーや歩行器を利用している方、歩行介助を受けていない方も移動がスムーズになります。全戸がアルコーブになっているため、突然玄関のドアが開いてぶつかる心配もなく、車いすで家に入るときも通路を塞がないため気持ちに余裕をもつことができます。

次に調査したのは、エレベーターです。私が住む棟にはエレベーターが三基設置されています。一階から監視カメラでエレベーター内の様子を見ることができるので、犯罪などの緊急事態に早期に気づくことができます。かご操作盤は車いすに乗っている方や子どもも押しやすい位置に設置されています。また、点字もあるので視覚障がいのある方も利用し

やすくなっています。開閉ボタンを色の違いで分かりやすくする工夫もされていました。

最後に調査したのは、室内です。玄関以外の戸はすべて襖か引き戸のため、戸が人に当たる心配や開けるときに一步下がる必要がありません。また、玄関の段差は低く、玄関や浴室、トイレに手摺が設置されています。

このように、この団地にはバリアフリー設備が充実しています。しかし、設備が充実していても、誰にでも困った事態は訪れます。そのような事態に必要なものは、人の「やさしさ」です。コロナウイルスが流行する前はイベントが沢山あり、団地の方々とのコミュニケーションも多く取れていました。共用廊下やエレベーターでも挨拶を交わすので、困っている方がいるときにも声を掛けやすいです。私も実際、視覚障がいの方が道に迷われている際に声を掛けたことがあります。

私は調査することで、改めて設備の「やさしさ」だけでなく、人の「やさしさ」も発見しました。今回発見した「やさしさ」を祖母の介護や困っている方のお手伝いなどに役立てていきたいです。



共用廊下のスロープと手摺



車椅子の方が押しやすい位置に設置されたかご操作盤エレベーター内にも手摺が設置



手摺が設置されているトイレ



休憩のためのベンチも設置

※「アルコーブ」とは

